

事務改革アクションプラン 2015（平成 27 年度実施計画）

に係る検証結果について

検証は、副本部長、教員の本部員 3 名（以下：評価者）が、事務改革アクションプラン 2015 に掲げた実施計画（取組）について、各課からの自己評価（※評価基準参照）及び書面による報告に基づき行っています。

※評価基準

- IV・・・計画を上回って実施している
- III・・・計画を十分に実施している
- II・・・計画を十分には実施していない
- I・・・計画を実施していない

事務改革アクションプラン2015の事務改革の取組状況に対する検証
【人事制度改革】

<総務課>

区分	取組番号	取組期間	具体的な取組事項	担当	取組状況(‘16年3月末現在) (具体的な取組み内容及びその結果を記入)	進捗状況 (自己評価)	評価者コメント				担当課から(関連事項)
							A	B	C	D	
人事制度改革	01-11-01	H27	人事計画の策定 (有能で意欲ある職員の採用確保及び定員管理)	総務課	<ul style="list-style-type: none"> 他機関への異動状況、再雇用、新規採用等を考慮して計画的に人事を行っている。 有能で意欲ある職員の採用確保のため、本学職員採用試験希望者を対象とした、本学の概要、特徴、Q&A等を公式HPに掲載し、情報を充実させるとともに、機関訪問の際に若手職員との懇談する機会を設けた。 事務職員のキャリアパス構築と優秀な人材確保のため、他の国立大学法人、文部科学省行政実務研修生、日本学術振興会、国立高等専門学校等との人事交流を定員管理に配慮した上で積極的に実施している。 	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。		
人事制度改革	01-11-02	H23 H24 H26 H27	勤務時間管理の見直し (勤務時間管理方法の見直し、業務フローの整備、新たな制度導入の検討、リフレッシュ休暇等長期連続休暇制度の検証等)	総務課	<ul style="list-style-type: none"> 24年度に新たに導入した特別休暇である「学長が指定する日」を検証し、8月の特別休暇については、28年度から新設される「山の日」との関連で新たな夏季休日として整理した。 給与、共済組合、社会保険事務に係る業務フローを25年度に整備し、業務の見直しがあった際に更新している。 勤務時間に関して、超過勤務を縮減するために、過半数代表者との話し合いで特別時間外勤務の限度時間を1ヶ月80時間から60時間に協定書を変更するとともに、特別時間外勤務を命ずる場合には事前に「特別業務従事通知書」を当該職員に通知することを徹底させることにより26年度に比較して、縮減できた。 また、健康面や業務の効率性を考慮し、「早朝型」超過勤務も可能である旨を職員に周知した。 勤務時間管理システムについて、27年4月から総務課職員、7月から教務課職員による試行を行う等、実施に向けて準備した。 リフレッシュ休暇制度について、会議等で夏の長期連続休暇に併せて取得するよう周知している。今後、永年勤続者表彰時において、取得促進について説明することについて検討した。 	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。		

事務改革アクションプラン2015の事務改革の取組状況に対する検証
【事務の簡素化・合理化】

<学長戦略企画課>

区分	取組番号	取組期間	具体的な取組事項	担当	取組状況(16年3月末現在) (具体的な取組み内容及びその結果を記入)	進捗状況 (自己評価)	評価者コメント				担当課から(関連事項)
							A	B	C	D	
改善見直し	02-14-01	H26 ~H27	新たな事業展開に対応するための 現行業務の在り方の見直し(意識 改革による業務のスクラップ)	全課	27年度に、28年度からこれまで以上に迅速な意思決定と執行部の情報共有を図ることができるよう、大学運営会議、教育戦略企画会議及び研究戦略企画会議を一つにした戦略企画会議を新たに設置し、毎週定期的に開催することを決定した。これにより、事務作業の軽減と、出席者・列席者の負担軽減にもつながる体制が整備できた。また、経営協議会、戦略企画会議、学長補佐等懇談会等の事務方出席者の精査を行い、関係する案件がある場合のみ関係課長が出席することとし、その時間を業務に有効に充てられるようにした。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。 * 戦略企画会議資料についてもペーパーレス化を検討していただきたい。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。 * 新体制を可能にするために、副学長、学長特別補佐の人数が増え、結果的に教員の負担は増加している。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	・戦略企画会議の資料については、直前の準備となってしまうことが多いためペーパーレス化は厳しい面もあるが、検討していきたい。 ・教員の負担については、前年度と比較し検証したい。	
改善見直し	02-14-02	H26 ~H27	所掌会議、打合せ等事務の見直し(連絡調整、議題整理、時間など)	学長戦略企画課	27年度に、過去の議題を確認、整理した上で、大学運営会議を隔週開催するとともに、大学運営会議と教育研究評議会において、また、大学運営会議と両戦略企画会議において、共通する議題を合同会議とすることで、効率化を図った。 26年度と27年度の大学運営会議、教育研究評議会の状況は以下のとおりで、改善が図られた。 ○大学運営会議 開催回数30→24、1回の会議平均63分→53分 ○教育研究評議会 開催回数22→24、1回の会議平均64分→31分 28年度に向けては、上記の取組番号02-14-01のとおり見直した。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。		
改善見直し	02-14-03	H26 ~H27	学長戦略企画課関係規則の見直し	学長戦略企画課	26年度は、法人法等の一部改正対応等、担当する規則等については、滞りなく改正を行った。 27年度は、28年度からの組織整備等に対応して、組織通則及びセンター規則の一部改正、戦略企画会議規則の新規制定等、40あまりの関係規則等の一部改正、新規制定を滞りなく行った。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。		
その他	09-14-01	H26 ~H27	執行部に係る情報の発信(構成員、体制及び方針など)	学長戦略企画課	従前からの学長室だよりの月2回の定期発行を継続し、27年度からは、さらに文頭に季節の挨拶を加える等、読者がより親しみを持てるように改善するとともに、執行部からのメッセージ欄も設け、執行部の考え方を伝えることとした。加えて、26年度から学長メッセージを公式HPにおいて定期的に発信している。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。		

<総務課>

区分	取組番号	取組期間	具体的な取組事項	担当	取組状況('16年3月末現在) (具体的な取組み内容及びその結果を記入)	進捗状況 (自己評価)	評価者コメント				担当課から(関連事項)
							A	B	C	D	
改善見直し	02-14-01	H26 ~H27	新たな事業展開に対応するための 現行業務の在り方の見直し(意識 改革による業務のスクラップ)	全課	教授会等に係る議題一覧等資料のホームペ ージ掲載により、教授会の議題一覧及び前回の議 事録を事前に紙媒体で、全教授個人宛に学内便 で配布していたことを廃止した。このことにより、職 員1名分の半日以上業務を軽減することができ た。 また、教育研究評議会及び代議員会の開催を、 過去の議題を確認、整理した上で、月4回から月 2回に減教したことにより、職員業務を大幅に 軽減することができた。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。		
改善見直し	02-14-04	H26 ~H27	総務課関係規則の見直し	総務課	26年度は国立大学法人法、学校教育法などの 改正に伴い、内部規則の総点検を行い、規則全 般の見直しを行った。また、今後より効率的な学 内の意志決定を推進するため、各種会議の見直 し等を行ったことにより、それに係る規則の見直 しを行った。 27年度は28年度からの組織整備、教員人事の 整備等に併せて、関係会議等規則及び就業規則 等の一部改正など、30あまりの関係規則等の一 部改正を滞りなく行った。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。		

<会計課>

区分	取組番号	取組期間	具体的な取組事項	担当	取組状況('16年3月末現在) (具体的な取組み内容及びその結果を記入)	進捗状況 (自己評価)	評価者コメント				担当課から(関連事項)
							A	B	C	D	
改善見直し	02-14-01	H26 ~H27	新たな事業展開に対応するための 現行業務の在り方の見直し(意識 改革による業務のスクラップ)	全課	日本学術振興会から採択された科研費等につ いては、着しい運配もなく安定的な資金交付がな されている実績を踏まえ、科研費等の一部の公的 な研究費は予定通りの資金繰りが見込まれるた め、「交付前使用立替願」の提出を省略することを 研究支援課とともに検討し、規程改正等も完了し、 27年4月から実施した。これにより事務だけでなく 教員の負担軽減となった。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。		
改善見直し	02-10-05	H24 ~H27	会計関係手続きの見直し ①予算執行管理の合理化(リア ルタイムで執行状況が確認できる システム)	会計課	新財会システム(H27.4.1運用開始)導入に際し、 発生源入力できる事項とできない事項について整 理した。予算管理者が、常時、手元で、発生源入 力できる事項(教員発注の物品購入等)について は、リアルタイムの予算執行状況を確認でき、発 生源入力できない事項(人件費、旅費等の事務局 で金額等が確定する事項)についても、概算金額 入力により予算執行見込みが確認でき、リアルタ イムで予算差し引きが確認できるシステムの運用 を図ることができた。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。 * 教員発注の物品購入に関 する伝票処理などは以前に比 べて作業量が増えている。検 印時に購入データを入れるこ とはできないか。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	・検収時の購入データ入力に関 しては、どの予算で支払うか等 の情報がなく入力が難しい面も あるが、効率化の面で検討して いきたい。	
		H22 ~H27	会計関係手続きの見直し ⑧事務局HP等を活用した学内教 職員向けの情報発信機能強化		Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。			
経費削減	07-10-01	H22 ~H27	管理的経費の削減 ①複写機の一括契約による経 費の削減	会計課	23年度からの複写機の一括契約による経費削 減(22年度31,414千円→27年度22,539千円:▲ 8,875千円 約28%削減)とともに、28年度からの 第2期情報入出力運用支援業務契約に向けて、 複写機以外の出力機器(プリンター、印刷機)の 実態調査とコストについて調査を行った。これによ り、複写機、プリンター等の最適配置を行い、業務 の効率化及びコスト削減が可能となった。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。		

<施設課>

区分	取組番号	取組期間	具体的な取組事項	担当	取組状況('16年3月末現在) (具体的な取組内容及びその結果を記入)	進捗状況 (自己評価)	評価者コメント				担当課から(関連事項)
							A	B	C	D	
改善見直し	02-14-01	H26 ~H27	新たな事業展開に対応するための 現行業務の在り方の見直し(意 識改革による業務のスクラップ)	全課	安全衛生委員会に係る資料の事前配信による ペーパーレス化を実施した。また、保守契約業務 の一括契約による管理業務の削減を行った。 薬品使用状況調査のweb化を図り、そのデータ を特殊診断実施の基礎データとして提供できるよ うにした。	Ⅲ	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	
改善見直し	02-12-10	H27	職員宿舎「すまいのしおり」の改定 (居住者と大学の責任範囲の明 確化)	施設課	宿舎の退去時に係る原状回復費用について宿 舎料の一部を積み立てることや、建物改修のため の一時的移動のお願い等を追加記載し、改訂版 を作成した。 「すまいのしおり」(冊子)は入居時に渡し、改訂 の際には、改訂部分を差し替えるという形を取っ ており、内容については、説明会やメール等で入 居者に通知を行っている。英語版についても、現 在作成中である。今後、学内専用事務局WEBへ の掲載を検討する予定である。 職員の英語力については、SD研修により英語 力向上に努めている。	Ⅲ	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。 *「すまいのしおり」の改訂部 分の差し替えは適切に行われ た。 *冊子の配付に加え、事務局 HPへの掲載を早急に実現さ れたい。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅱ 計画を十分に実施していな い *職員宿舎「すまいのしおり」 の英語版が必要である。生活 文化が異なる外国人を職員宿 舎に住ませる場合は、それ なりの準備と周囲居住者への 連絡・合意が必要であろうと考 えるが、そういったことが職員 の業務マニュアルに記載され ているのか。職員の語学力に 問題があり言葉が通じないと、 様々な対応が遅れるのではな いか。	・言葉が通じない、生活文化が 異なるといった外国人入居者 については、国際課の職員と連携 し対応している。「すまいのし おり」の内容に関しても見直しを 行っていきたい。
サービス向上	05-11-02	H23 ~H27	教員の教育・研究施設改善要望 を反映した改修計画の作成	施設課	各教職員に対し毎年12月頃にアンケート調査を 行い、教職員からの教育研究改善要望を反映し た改修計画を作成し、施設マネジメント推進会議 にて、概算要求事項、修繕費等に事業の振り分け を行った。 1年間かけてキャンパスマスタープランの見直し を行い、再度教職員からの教育研究改善要望を 踏まえて、長期修繕計画を策定した。 キャンパスマスタープランについては学内専用 事務局WEBにて公表している。	Ⅲ	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	
サービス向上	05-12-03	H24 ~H27	共用スペースの公開及び共用ス ペース以外の室等使用手続き及 び使用状況の公開	施設課	ホームページ上で共用スペース及び共用ス ペース以外の室等の使用手続き及び使用状況を公開 し、共用スペースの募集期間(年4回)中には教職 員にメールでの周知も行った。このことにより、教 員が最新の使用状況等を常時確認できるよう になり、事務の簡素化を図ることができた。 また、教育・研究組織の再編に伴う施設配置に ついて、学内再編に対応した施設利用将来計画 を追加公開した。	Ⅲ	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	
サービス向上	05-12-04	H24 ~H27	年度工事スケジュールのホーム ページ公開	施設課	教育・研究への影響を考慮し、年間の工事実施 スケジュールを年度当初に作成し、ホームページ 上に公開した。また、工事ごとに着工前にメール でも再度連絡した。その結果、苦情件数が減っ た。 26年度までの取り組みに加え、実施スケ ジュールを関係部署と調整のうえ作成するなど、 今まで以上に配慮した。	Ⅲ	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	
その他	09-11-02	H23 ~H27	機器等の減価償却を反映した更 新計画の作成と現場ニーズを反 映した見直し	施設課	毎年12月頃に現場のニーズを調査し、機器等 (空調・照明)の減価償却を反映した更新計画の 見直しを行い、それを基に予防保全による良好な 教育研究環境を確保するとともに、毎年コスト の平準化を図った。 1年間かけてキャンパスマスタープランの見直し を行ったことに伴い、更新計画も併せて見直し した。キャンパスマスタープランについては学内専用 事務局WEBにて公表している。	Ⅲ	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	

<国際課>

区分	取組番号	取組期間	具体的な取組事項	担当	取組状況('16年3月末現在) (具体的な取組み内容及びその結果を記入)	進捗状況 (自己評価)	評価者コメント				担当課から(関連事項)
							A	B	C	D	
改善見直し	02-14-01	H26 ~H27	新たな事業展開に対応するための 現行業務の在り方の見直し(意識 改革による業務のスクラップ)	全課	三機関連携事業及びスーパーグローバル大学 創成支援事業業務に対応するため課内の業務見 直し及び適正配置を行った。 学生の派遣及び受入事業増に伴い、留学生係 内の業務の見直しを行い合理的な業務配分を 行った。 国際戦略本部のもと海外大学等連携教育推進 室を設置し、入試課・教務課も構成員としてツイ ングプログラム等の円滑実施体制を構築した。 国際プログラム、海外大学とのツイングプログ ラムの入試業務は入試課へ、国際交流会館の管 理・運營業務は学生課へ移行し事務の一元管理 を行うことの検討を進めた。	IV	IV 自己評価が妥当であると判断 する。	IV 自己評価が妥当であると判断 する。	IV 自己評価が妥当であると判断 する。	II 計画を十分に実施していな い * 英語によるコミュニケーシ ョン能力が欠ける職員を宿舍業 務につけるなど、人事配置が 不適切であった。早急な改善 が必要である。	・以前より国際交流会館の管理 人については英語能力を有する 者を配置していたことから一元 化により英語による学生宿舍業 務への対応も可能となりうるこ とが予定されている。
サービス向上	05-12-07	H24 ~H27	学内文書の英文化	国際課	留学生及び外国人研究者が提出する申請書の 様式や周知メールは日英併記とし、日本語が分 からない者への配慮を行った。 本学公式ウェブサイト及び国際交流センターウ ェブサイトについても英文ページを作成し、定期 的に更新を行い、英語での情報提供を実施した。 スーパーグローバル大学創成支援事業経費を 活用し、予算措置を行い各課事務文書の英語化 支援を行うこととした。 英訳については各課で必要事務文書を洗い出 し、国際課で取り纏め入れを行うこと等により、円 滑に作業を進め、経費削減を図った。次年度以降 についても予算を確保し引き続き関係部署に確認 する事としている。 事務職員についてはSDIによる英語研修による 能力向上を継続的に実施した。非常勤職員の英 語能力のある職員をフルタイム職員として採用 し、人材確保を図った。	III	III 自己評価が妥当であると判断 する。	III 自己評価が妥当であると判断 する。	III 自己評価が妥当であると判断 する。	III 自己評価が妥当であると判断 する。 *英訳は専門家に頼めばでき るかもしれないが、事務系職 員の英語能力に問題があると 感じる。適切な人員配置が必要 である。	

<研究支援課>

区分	取組番号	取組期間	具体的な取組事項	担当	取組状況('16年3月末現在) (具体的な取組み内容及びその結果を記入)	進捗状況 (自己評価)	評価者コメント				担当課から(関連事項)
							A	B	C	D	
改善見直し	02-14-01	H26 ~H27	新たな事業展開に対応するための 現行業務の在り方の見直し(意識 改革による業務のスクラップ)	全課	会議はできる限り1時間以内で終わるようにし、 構成員が同じ委員会等は、同日開催するようにした。 また、検討、議論を要しないような議題の会議 については、メール会議で行うようにした。 また、他課からの紙媒体による調査もの等の依 頼についてはPDF化しメールで課内へ依頼や共 有を図ることとし、時間と紙を節約している。 27年度においても、同様に業務の省力化を進め 合理化・省力化を恒常的に実施できるよう課内打 合せ等を通じて、職員への浸透を図った。	Ⅲ	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	
改善見直し	02-10-06	H22 ~H27	研究支援課関係規則の見直し	研究支援 課	26年度は、「公的研究費の管理・監査のガイドラ イン」及び「研究機関における研究活動の不正行 為への対応ガイドライン」が文部科学大臣決定さ れ、ともに体制整備・学内規程の整備を求められ たことから、関係規程等の改正を行った。 27年度は、未整備事項であった研究データの保 存に関して規程改正を行った。また、研究者の行 動規範については、当初予定していた理由以外 に改正すべき理由が生じたことから併せて改正を 行い、なおかつ、研究を支援する事務職員等に係 る行動規範についても規定した。 また、人を対象とする医学系研究に関する倫理 指針が 26年12月に公布されたことを受けて、本 学における同研究の倫理審査について見直しを 行い、これまでの安全衛生委員会及び同専門部 会での審査を廃止し、新たに人を対象とする研究 倫理審査委員会を設置することとし、関係規程の 改廃を行った。	Ⅲ	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅱ 計画を十分には実施してい ない *人を対象とする研究倫理審 査委員会と名前は改まったか もしれないが、内容が医学系 研究に関する倫理指針に基づ きや教育・研修の実施には、 なじまない研究もあると思わ れる。工学系大学なので、人 間工学系研究に関する倫理指 針が必要ではないか。	・28年3月末現在の取組状況は 自己評価のとおり。4月以降、新 体制による研究倫理審査を行う 中では、全て一律に医学系研究 に関する倫理指針に基づく手続 ことから、人を対象とする研究倫 理審査委員会において検討中。
改善見直し	02-13-07	H25 ~H27	技術支援室における業務の見え る化と活動の充実	研究支援 課	26年度は、25年度に引き続き、技術支援室チ ームの紹介と活動状況をまとめた「技術支援室報 告書」(H26.7.1)を発刊し、国内の大学や高等等に配 布することにより技術支援室の見える化を実施し た。 また、技術支援室としてオープンキャンパス体験 学習のテーマを企画し実施したほか、毎月、技術 支援室・部会会議において各チームの活動状況 を報告するなど活動の充実に努めた。 27年度においても、「技術支援室報告書」 (H27.7.1)を発刊し技術支援室の見える化を実施 した。 さらに、科研費を原則技術職員全員申請するこ ととしたほか、技術職員による学内研修会の実 施、他大学・高専の技術職員を招いた「技術交流 講演会」等の開催により、技術支援室の活動強化 を図った。	Ⅲ	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	

区分	取組番号	取組期間	具体的な取組事項	担当	取組状況('16年3月末現在) (具体的な取組み内容及びその結果を記入)	進捗状況 (自己評価)	評価者コメント				担当課から(関連事項)
							A	B	C	D	
改善見直し	02-13-08	H25 ~H27	系事務室マニュアルの改訂	研究支援課	系事務室マニュアルの改訂に当たっては、学系係打合せを開催し、系事務との打合せ、確認を行うと共に、各関係部署に記載事項の内容について照会を行い作業を進めた。系事務室は、非常勤職員のみでの配置となっており、このマニュアルは業務遂行上重要である。 また、初めて系事務室に配属になった職員に対しては、このマニュアル等をもとに懇切丁寧に業務の説明を行い、事務処理に支障を来さないように努めた。 本マニュアルは、教員の勤務時間管理、会計処理などの全系に係る共通業務の汎用マニュアルを主に構成されているが、系独自の部分については、各系事務において随時作成、修正している。 毎年度3月に改訂を行い、27年度については、会計システムの導入に伴う変更などを反映させた。	Ⅲ	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	
改善見直し	02-14-09	H26 H27	財団等の研究助成公募情報の提供充実と申請・採択状況の分析整理	研究支援課	財団等からの案内が送られてくるのを待つだけでなく、財団等のホームページを検索し、公募情報の収集を行い、学内に案内した。 27年度は、一律の案内に加えて、大型の研究助成金を公募する財団があったことから、特に目立つように案内する工夫をすとともに、RAC2・3室合同連絡会において、URA及びコーディネータに説明を行うなど情報共有を行い助成金獲得に努めた。過去5年間の申請・採択状況を整理、分析したところ、おおむね30%超の採択率であり、申請件数が多い年度は採択件数、金額が多い状況である。引き続き、公募情報の情報提供を積極的に推進していく予定である。(H23~H26平均採択率:31.9%, H27 36.0%)	Ⅲ	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。 * 財団の研究助成ではないが、科研費の新規採択率が減少している理由をRACとともに分析し、学内に共有すべきである。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅱ 計画を十分には実施していない * 情報提供1件につき1メールの連絡には反対である。必要なメールが埋没してしまうので、教員が必要な時にアクセスできるHPの整理と情報提供の仕方を工夫して欲しい。	・科研費の新規採択率の減少等について、RACと連携し分析等おこなっていく。 ・公募案内は、法人化以前から実施し、特にメールによる案内は、教員から積極的に情報を流して欲しいとの要望から始めたものである。 情報提供の在り方については、今後も教員からの要望を踏まえ、適宜見直し等対応していきたい。
サービス向上	05-13-01	H25 ~H27	教員の研究業績等情報の集中一元化	研究支援課	教員の研究業績等の情報に関しては、使用目的に応じて異なる調査を各部署(研究支援課、学長戦略企画課、総務課、教務課)から各教員に依頼し、同じような作業を何度もさせていることから、情報を集中一元化し効率的な情報管理・運用をするための検討を進めるとともに研究関係情報の整理を行った。関係各課と連携した集中一元化の実施には至らなかったが、科研費や論文生産力など研究力強化に向けた情報収集、分析についてはRACが担当するなど研究支援課と連携してその強化を図っている。 28年度からIR担当の副学長の配置、IR本部の設置が決定されたことから、RACを含めた新たな枠組みの中で検討するとともにIR研究担当としての情報の集約化を進めることとしている。	Ⅱ	Ⅱ 自己評価が妥当であると判断する * 本件は事務改革とは別の次元で、執行部での検討が必要ではないか。	Ⅱ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅱ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅱ 自己評価が妥当であると判断する。 * 年度当初に行うべき各教員へのデータの更新依頼等が徹底されていない。また、学内の教員の成果データベースはどこにあるのか。共同研究したいと思っても外部の検索を使わないといけない。	・現状では、年度当初に、公式HPに掲載している教員紹介のデータ更新依頼を行うとともに、更新されたデータを基に、研究紹介(冊子)を作成している。 今後は、事務改革とは別の次元で検討していきたい。

<教務課>

区分	取組番号	取組期間	具体的な取組事項	担当	取組状況('16年3月末現在) (具体的な取組み内容及びその結果を記入)	進捗状況 (自己評価)	評価者コメント				担当課から(関連事項)
							A	B	C	D	
改善見直し	02-14-01	H26 ~H27	新たな事業展開に対応するための 現行業務の在り方の見直し(意 識改革による業務のスクラップ)	全課	教務委員会、教育制度委員会の資料について、 事前に電子ファイルを送信することによって、ペー パーレス化を実現し、用紙の使用量、資料作成準 備時間及び委員会開催時間等を削減した。 高専連携事業として実施してきた限られた地域 を対象とするバスツアー+ラボツアーを見直し、代 わりに全国から希望者を受け入れるラボツアーと したことで、十分に目的を達成した上で、同行引 率等の業務量および経費削減につながった。 体験実習生のスケジュールを見直すとともに、 宿泊先を選択(宿舍の談話室からビジネスホテ ル)できるようしたことで、職員の日出勤の回避 や、宿泊場所確保及びメンテナンス業務の負担軽 減につながった。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。 * 体験実習生の宿泊施設とし て夏休み中の寮を一部でも使 えるようにできないか。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	・高専の体験実習生の宿泊先と して学生宿舎が使用できるか という問題は、初期から要望が あり検討もしているが、現在入 居中の学生をその時期だけ退居 させることは難しく、また、実 習生からは宿泊料を取っていない ため、その時期の宿舍料が徴 収できなくなるという会計的な問 題もある。	
サービス向上	05-12-05	H24 ~H27	図書館利用サービスの向上	教務課	図書館ホームページのトップページは英語版を 公開し、利用案内、利用者へのお知らせ、電子 ジャーナル・デジタルライブラリ利用のページにつ いても英語版もしくは英文併記としたことで、英語 版ページの拡充を図った。 なお、今後においても所要の改善・変更を継続 的に行う。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。 * トップページの英語版は確 認できたが、利用案内、利用 者へのお知らせ等については 、英語版がわかりにくい。他 のHP英語版に比べ、まだ改善 の余地がある。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。		
経費節減	07-11-02	H23 ~H27	各種刊行物の事務局WEB掲載に よる印刷部数縮減又は印刷廃止	教務課	26年度までに、博士学位論文の申請書、手続要 領等(150ページ相当)について、27年4月の事務 局WEBに掲載に向けて準備を行い、27年4月23日 の博士課程制度委員会での決定後、事務局WEB に掲載した。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。		

<学生課>

区分	取組番号	取組期間	具体的な取組事項	担当	取組状況('16年3月末現在) (具体的な取組み内容及びその結果を記入)	進捗状況 (自己評価)	評価者コメント				担当課から(関連事項)
							A	B	C	D	
改善見直し	02-14-01	H26 ~H27	新たな事業展開に対応するための 現行業務の在り方の見直し(意 識改革による業務のスクラップ)	全課	学生生活委員会において、PC導入によるペー パーレス化を推進するとともに、議題の順番を見 直し、協議事項を先、報告事項を後とすることで、 審議にかかる時間を十分に確保した上で、時間内 で会議をおさめることができるようになった。 また、打合せの形に拘らず、委員とのポイントを 押さえた確認等により、事前打合せの回数を削減 した。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。		
サービス向上	05-10-06	H22 ~H27	学生の満足度を高める学生サー ビスの提供 (②HPの整備による学生へのわ かりやすい情報提供(学生の立 場から情報収集しやすいコンテ ンツ構成への改善、情報入手希 望者に更新情報を発信する仕組 みの導入)	学生課	最新情報については、学生課のHP及び公式HP を随時更新し、学生便覧に掲載している内容を 含めた情報提供を行った。 また、SNS(Twitter, Facebook)を活用した情 報発信を行い、学生が収集しやすいサービスを利用 した情報提供を行った。 併せて、学内(食堂、講義棟)の電子掲示板を利用 した最新情報の提供を推進した。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断 する。		

<入試課>

区分	取組番号	取組期間	具体的な取組事項	担当	取組状況('16年3月末現在) (具体的な取組み内容及びその結果を記入)	進捗状況 (自己評価)	評価者コメント				担当課から(関連事項)
							A	B	C	D	
改善見直し	02-14-01	H26 ~H27	新たな事業展開に対応するための 現行業務の在り方の見直し(意識 改革による業務のスクラップ)	全課	27年度に実施するすべての学部1年入試について、インターネットを利用した出願とした。学生募集要項については、公式HPからのダウンロードを原則としたが、提出様式などを省略した簡易版も作成・配布し、本学の業務スクラップが入試広報及び受験生の利便性低下に繋がらないよう配慮した。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅱ 計画を十分には実施していない * 出願以前に、英語や国語の入試解答がほとんど穴埋目問題であるのに、手書きさせるそのナンセンスで文系的な業務が工学系大学の入試として問題であると思う。マークシートを使えば、大幅な人件費削減に繋がると思う(採点にダブルチェックなど膨大な人手が必要になっている)。	・入学試験の実施方法等については、入学選抜方法研究委員会、入学試験委員会での検討事項となっている。マークシート導入に関しては、「入試改革全体の一部として検討を進め、マークシート導入に限定した検討は実施しない」ことを、担当理事を含め共有している。	
業務委託	08-10-01	H22 ~H27	大学入試センター試験の業務委託の検討 (設営及び撤収、警備業務など)	入試課	平成27年度大学入学選抜大学入試センター試験(26年度実施)から、駐車場の警備業務及び受験者待機場所の設営・復元業務を外部委託したことにより、応援事務職員数の削減と危険業務(夜間の交通整理等)への従事が減少した。 平成28年度大学入学選抜大学入試センター試験(27年度実施)に係る警備業務について、事務職員に代えて大学院生を充て実施したことにより、人件費の削減には繋がったが、受験生の混乱と応援事務職員の実質的業務量が増加する結果となったため、費用の削減のみではなく、効果・効率を基本とした改善を検討することとしている。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。	Ⅲ 自己評価が妥当であると判断する。		